

(平成28年 3月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水産物全般	<p>3月の総入荷量は、前年同月に比べると鮮魚、冷凍魚は3%程度の入荷の減少であったが、加工水産物は5%の減少となり、全体として4%の減少となった。価格については、鮮魚、冷凍魚、加工水産物ともに2~3%の値上がりとなったことから、水産物全般の取扱金額は前年同月と比べ1%下回った。</p>
(区分別の動向) 鮮 魚	<p>3月の鮮魚の総入荷量は、前年同月と比べ3%下回ったため、平均単価は2%上回った。</p> <p>品目別には、かつおは入荷が40%下回り、価格は38%上回った。養成まだい、ふぐは入荷が13%下回り、価格はそれぞれ19%、22%上回った。一方よこわは入荷が48%上回り、価格は15%下回った。水かれいは入荷が32%上回り、価格は7%下回った。ますは入荷が56%上回り、価格は12%下回った。</p> <p>4月には、まだいが産卵に向けて深場から沿岸の浅場へ移動して来るため、漁獲が増えて味もいい桜だいの時期となる。また初がつおもこの時期食べておきたい一品であるが、現状では漁獲が低調となっており、今後の漁獲回復が期待される。</p>
冷 凍 魚	<p>3月の冷凍魚の総入荷量は、前年同月と比べ3%下回ったことから、平均単価は3%上回った。</p> <p>品目別には、冷えびは、前年の秋にかけて徐々に値下がりしたことにより需要が回復していたが、また値上がりしてきており価格は4%上回り、入荷は7%下回った。冷さけはチリ産を主体に価格は6%下回り、入荷は前年並みであった。</p> <p>チリではエルニーニョの影響で赤潮が発生して、養殖魚がかなり死滅しており、さけ、ます類は今後の動向が注視される。</p>

加工水産物	<p>3月の加工水産物の総入荷量は、前年同月と比べ5%下回ったため、平均単価は2%上回った。</p> <p>品目別には、塩さばは原料となる大型サイズの漁獲が少ないことから入荷が8%減少して、価格は15%の値上がりとなり、丸干ししゃもは、前年より65%値上がりして入荷は33%下回った。また塩さんまは昨シーズンの不漁から価格が44%値上がりとなり、入荷は48%下回った。開干あじは入荷が19%上回り、価格は7%下回った。</p> <p>4月には、ほたるいかが旬となるが、兵庫産は入荷が順調であるが、富山産は今のところ少し低調である。また春祭りの時期となり、京都の祭りに欠かせない鯖寿司に用いる塩さばの荷動きが盛んになる。</p>
-------	---

※生鮮魚：鮮魚，貝類，淡水魚

※冷凍魚：冷凍魚（鯨肉を除く）

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	徳島，愛媛で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ10%上回ったため，価格は14%下回った。
ま い わ し	三重，石川で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ15%下回ったが，大羽が少なく中，小羽サイズが主体となったことから，価格は8%下回った。
さ ば	静岡，三重で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ32%下回ったが，サイズの小型化の影響を受け，価格は4%下回った。
す る め い か	長崎，富山で水揚げされたもの主体の入荷となったが，漁獲不振が続き入荷量は前年同月と比べ40%下回ったことから，価格は2%上回った。
太 物	入荷量はきはだまぐろは14%上回ったが，本まぐろが7%，めばちまぐろが48%下回ったことから，総入荷量は前年同月と比べ3%下回ったが，輸入物主体で良品が少なかったため，価格は5%下回った。
び ん ち ょ う	長崎，千葉で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ8%下回ったが，需要の低下で価格は5%下回った。
ひ ら め	長崎，韓国で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ5%下回ったため，価格は5%上回った。
(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	ノルウェー産が47%の増加となったことから，入荷量は前年同月と比べ18%上回り，価格は7%下回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ5%上回ったが，2年続けて漁獲が低調となったことから今後の品不足が予想されるため，価格は10%上回った。

(加工水産物主要品目)	
ち り め ん	高知，徳島で水揚げされたもの主体の入荷で，入荷量は前年同月と比べ3%上回ったが，良品が少なかったことから価格は13%下回った。
な ま ぶ し	和歌山産主体の入荷で，原料であるかつおの漁獲が低調であったことから，入荷量は前年同月と比べ19%下回ったため，価格は8%上回った。